

岐阜県教販通信

No.0025

GIKYOHAN TIMES

2022 年 12 月発行

子どもの読書量

当社は岐阜県の全小中高校に 100 年以上教科書を供給し続けてきまして 2021 年度に、「スクールイーライブラリー」進呈させて頂きました。電子図書によって新しい読書の機会を与えることで深い学びにつながる一助となればと思います。12月19日に急遽寺脇氏が来社して「子供の読書量」について座談会を開催します。詳細は別添資料をご確認ください。是非ご参加のほう何卒宜しくお願い致します。



寺脇 研 氏

寺脇研(てらわき けん、1952 年～)元文部官僚。星槎大学大学院教育学研究科客員教授。官僚時代には文部省 NO.1 の論客でならし、ゆとり教育の広報を担った。福岡県福岡市出身

子どもの読書量は増えているのでしょうか？ それとも減っているのでしょうか？

こう聞いてみると、ほとんどの大人は「減っている」と答えるに違いなし。なにしろ、ゲームや YouTube など、昔はなかった新しい媒体が世にはあふれているし、昔と比べては「今の子どもはダメだ」的な物言いをする大人も多い。

ところが、学校現場にいる先生方はご存知だと思うけれど、実は増えているのだ。

全国学校図書館協議会は毎年、5 月 1 ヶ月間に何冊読んだかの調査を、30 年前から続けている。それによれば、一ヶ月の平均読書量は、小学生（4 年生～6 年生）が、30 年前に 6.5 冊だったのが今年は 13.2 冊。中学生でも、30 年前に 2.1 冊だったのが 4.7 冊と、倍以上になっている。

また、「5 月 1 ヶ月間に 1 冊も読んでいない」と回答した「不読者」の割合が、30 年前には小学校で 11.7%だったのが、今年は 6.4%。中学校でも 45.8%が 18.6%にまで下がっている。

むしろ「不読者」は大人の方が多い。2020 年に文化庁が行った調査では、大人の 47%が「月に 1 冊も読まない」と答えている。この調査では「以前と比べて読書量は増えましたか、それとも減りましたか」との問いもあるのだが、65%以上が「読書量は減っている」と回答している。しかも、「今後、読書量を増やしたいと思っていますか」の問いにイエスと答

えたのは、わずか 7%だった。

「読書離れ」しているのは、子どもたちではなく、大人の方なのである。子どもは、決して「読書離れ」なんかしていない。だとすれば、彼らの読書力がさらに高まっていくように指導していくことが重要になってくる。

そこでわたしは、子どもの読書力について考える集まりを持ちたいと思う。今までの読書指導は、数字を見る限り、明らかに成功を収めてきた。だが、e ライブラリーのような電子媒体が登場する中で、新しい読書指導の在り方を研究することが必要だと考えるからである。さまざまな角度から議論する中でアイデアを出していこうというのだ。

是非、多くの先生方と議論できればと願っている。